

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

～国際感覚を備えた新しい時代のリーダーを育てる学校をめざす～

1. 希望の進路実現に繋がる確かな学力を育む学校
2. 国際理解教育の推進を図り、自己表現力、コミュニケーション能力を身につけ、グローバル化の進む社会で活躍できる人材を育成する学校
3. 夢や目標にモチベーション高く向かい、リーダーとなりうる社会人基礎力を備えた人材を育成する学校

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領を踏まえ、基本的な学力の定着を礎に、進路実現を保障する確かな学力をつける。また、各教科の実践と検証に則り、教育課程委員会等を核として「わかる授業、やる気を引き出す授業」を目標として大幅な授業改善に取り組む。

※ICTの授業での活用を推進し、学習内容の理解度を向上する。

※各教科で教え方、使用する副教材（ICTの副教材やプリント等）の研究及び教科毎の情報共有化を図る。

※全ての科目の授業で、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養う機会を積極的に設ける。

※既習内容の記憶の定着を図るため、可能な限り、授業終了前3～5分間に既習事項確認の発話（ディスカッション）の時間を設ける。

※土曜講習や補講を充実し、学力の底上げを図る。

※進路指導部・学年・教科等で密に連携し、年間計画に基づいた綿密な進路指導、学習指導を行う。

●学校教育自己診断「授業はわかりやすい」平成25年度48.1%を、→平成26年度53%、平成27年度58%、平成28年度63%を目標とする。

●授業アンケート「授業内容に、興味・関心をもつことができた」についての肯定的回答、平成25年度74%を、→平成26年度75%、平成27年度76%、平成28年度80%を目標とする。

●授業アンケート「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」についての肯定的回答、平成25年度76%を、→平成26年度77%、平成27年度78%、平成28年度80%を目標とする。

●英語検定準2級以上の合格者合計を、平成25年度61名を、→平成26年度65名、平成27年度70名、平成28年度75名を目標とする。

●国公立大学合格者数を、平成25年度2名を、→平成26年度5名、平成27年度8名、平成28年度10名を目標とする。

●難関私立大学（関関同立・産近甲龍・関西/京大外大）の現役のべ合格者数を、平成25年度194名を、→平成26年度233名、平成27年度252名、平成28年度271名を目標とする。

2 キャリア教育に基づく自己実現の支援

(1) 自立した基本的生活習慣を確立する。挨拶等の社会人としてのマナーや常識について伝え、規範意識や協調性を培い、遅刻や欠席を減らす。

※社会人としてのマナーや常識についての講話を実践する。（校長）

※社会や学校のルールを守り、自発的に自分を律することのできる「自主自律（校訓）」の精神を醸成する。

※生活指導部・学年・教科等で密に連携し、根本的な生活指導を綿密に行う。

●頭髪、服装、遅刻指導を徹底する。特に遅刻は平成17年度12640件だったものが著しく減少し、指導実績を上げてきているが、更に平成25年度1927件を、→平成26年度1850件、平成27年度1800、平成28年度1750件を目標とする。

(2) 学校行事や部活動、国際関連行事や語学研修を通し、成功体験、失敗体験から「達成」と「克服」を経験し、社会人基礎力「前に踏み出す力」

「チームで働く力」「考え抜く力」を養成する。生徒が夢や志を持って自己の可能性を伸ばし、よりよい社会を創っていかうとする態度を育む。

※集団活動に積極的に取り組む機会と環境を提供し、自他の違いを認め、協調し、自分の希望や都合よりも相手の立場や気持ちを優先できる「協調友愛（校訓）」の精神を培い、国籍を問わず、他者と望ましい人間関係を構築できる人間性を育む。

※普通科、国際教養科の隔たりなく、国際感覚を醸成すべく、校内国際交流、海外修学旅行などの国際交流に取り組む機会を支援する。

●部活動加入率（3学年平均）は平成25年度66%を、→平成26年度67%、平成27年度68%、平成28年度70%に伸ばすことを目標とする。

3 学校の特色づくりと組織力の向上

(1) 勉学、学校行事、部活動などの教育活動に関する教職員の共通理解を深め、気持ちを一つにしてよりよい「旭」に向けてチームワークを育み、目標を持って邁進できる組織を構築する。

※運営会議、職員会議などの充実を図り、合理的な校務分担体制を確立する。更に、魅力授業プロジェクト、将来構想委員会の運営に注力する。

※前年踏襲ではなく、教職員が常に「改善」の意識を持ち、授業改善、学校改革に一丸となって取り組むよう努める。

(2) 校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を捻出する。

※ICTを積極的に活用し、分掌の校務や教科準備など事務的作業の簡略化、授業準備の効率化を図る方法を教員主体で構築する。

(3) 学校の特色の共通認識と広報活動の充実を図る。

※学校の特色やアピールポイントを再認識する。HPを充実させ、地域行事参加、中学校（学習塾）訪問等、広報活動の範囲を広げる。

●広報活動の拡充を図り、受験の応募状況、合格者分布等を精査し、積極的に説明会に参加する。オープンスクール開催を年2回から3回に増やし、来校者数を26年度は1500人を目標とする。（キャパシティの問題もあるので、その後の数値目標は未定）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分] | 学校協議会からの意見 |
|--|---|
| <p>□肯定的回答（よくあてはまる、ややあてはまる）の割合 今年%（昨年%）</p> <p>●確かな学力の育成</p> <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供は授業が分かりやすく興味深いと言っている。42.0%（36.1%） <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業はわかりやすい。49.3%（48.1%） ・授業で分からないことについて先生に質問しやすい。51.2%（49.8%） <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の精選・工夫を行っている。88.1%（86.2%） ・学習指導の方法や内容について工夫している。91.5%（86.2%） <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・義務教育の頃とは違い、高校になると進路を見据えて一定の水準の教科書を選択するので授業も当然難しくなる。昨年より授業に対する生徒の評価はわずかに上昇したが、依然厳しいものがある。ただし別途実施の授業アンケートでは肯定的な評価が多い。 <p>●学校生活全般</p> <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に行くのが楽しい。73.7%（75.8%） ・将来の進路や生き方について考える機会がある 72.5%（76.5%） ・先生はいじめなど困っていることに真剣に対応してくれる。47.6%（46.1%） <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは学校に行くのを楽しみにしている。82.8%（81.0%） ・将来の進路や生き方について適切な指導を行っている。63.5%（64.5%） ・学校の生徒指導の方針に共感できる。66.7%（67.2%） <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員は生徒の意見をよく聞いている。76.3%（69.5%） ・生徒の問題行動が起こったとき組織的に対応できる。74.6%（71.7%） ・生徒はクラス担任以外の教職員とも相談できる。76.3%（63.8%） <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者からの評価はほぼ昨年と同じ評価である。生徒相談に関しては、生徒の評価はそれほど高くはないが、教員は昨年よりも連携を取りやすい状況になったと感じている。 <p>●学校経営・施設整備全般</p> <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室等は授業がしやすいように整備されている。60.0%（53.9%） <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室等の学習環境は満足できる。53.9%（47.7%） <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営に教職員の意見が反映されている。59.3%（65.0%） ・分掌や学年間の連携が円滑に行われている。44.1%（46.0%） ・教育活動について生徒・保護者への周知に努めている 80.0%（67.8%） <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者からの評価は増加傾向がみられる。施設設備が老朽化しているが、H25は東館の耐震工事と同窓会館の外壁塗装、H26は北館の耐震工事と特別教室3か所のエアコン設置を行った。また平成25年度に3年生、平成26年度に2年生の普通教室にプロジェクタを設置したことで教室における学習環境の評価が上昇したと思われる。 | <p>第1回（6月16日）</p> <p>□授業改善について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの利用で時間の節約・効率のよい授業ができると期待している。これから先生方が研修を受けて、よい変化が起こると信じる。それらの活動に保護者が支援し、その様子が外に伝わっている。現状に甘んじることなく、向上しようとしているのが伺える。 ・先生方の能力を上げるには教科内での連携が必要不可欠であると感じている。教科会の頻度を上げることは中学校でも課題となっている。 <p>□生活指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻指導の際、正門にホワイトボードを設置し、昨日の遅刻件数を示していることは、生徒が学校を誇りに思うことに繋がっているように思う。中学校でも生かせることであり、近隣の学校に対して旭高校の生徒の遅刻が少ないことはよい影響を与えていると思う。 <p>□旭高校の魅力について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旭区の学校説明会での保護者の関心の高さには注目させられる。旭高校の国際色豊かな点がアピールポイントになっている。男子生徒が少なくなっている理由は、旭高校の国際性にあるのかもしれない。旭高校は優秀な女子生徒を集める方向性に行くように感じる。今後男子生徒を獲得するための課題をどうするのか。 <p>□ハラスメント・いじめについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨今様々なハラスメントが存在し、ハラスメントだと気付かないことも増えている。このようなハラスメントに対して高校では相談窓口があるのだろうか。 ・大学にはハラスメント相談委員・委員会が存在するが、生徒はどこに相談したらいいかわかっているか。 <p>第2回（10月20日）</p> <p>□旭高校の魅力ある授業づくりにむけて（授業見学を終えて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校でも生徒が前を向いた一斉授業だけでなく、皆で話し合う授業等の取り組みをICT活用もしながらやってきている。今回の授業見学の中で教え合いが出来ていたように思えた。ICTを使うことはもちろんだが、新しい授業形態を作ることでも更にできることもあると思う。 ・初めて授業見学をして衝撃を受けた。子どもたちの教え合いが興味を高める効果もあったように感じた。 ・大学でもグループ内で意見を出し合ったり、討論をさせるという新しい授業形態が増えている。完全受け身型の授業から意見を述べて皆で考えるという授業へと変化している。 ・高校・大学も含めて他校種間でのギャップを埋めていくことができればもっと時間短縮をした改革ができるのではないかと思う。 ・教室が狭く、暑く感じた。 ・英語の授業ではレポートをさせるのが語学を学ぶ第一歩として良いと感じた。 ・生徒同士の教え合いが、数学とは思えないほど楽しい雰囲気で効果的に行われていると感じた。 ・大学では授業を英語でやろうという流れができている。語学力は大事だが、本当の意味でのグローバル化の対応に必要なのは語学力だけではなく、異質な人を受け入れようとする態度、世界で今何が起きているかを知り、自分がどのように関わることかを考える国際社会参画の態度である。若い世代に身に付けてもらいたい。 <p>第3回（1月26日）</p> <p>□学校経営計画および学校評価について提言、及び全体を通しての提言等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旭高校 LINE 同盟。旭生の女子生徒が仕切って座談会を実施したが、素晴らしく、中学校での指導に生かしている。地域の方々も旭生を見ていて、力を認識している。それがよい発信になっている。そういう生徒が育っている。 ・旭生はグローバルな観点で育っている。教員が教えているのではなく本人達も自覚はないだろうが間違いなく育っている。伸びしろの大きさを感じる。（大学教授） ・旭生の活躍が嬉しい。社会のモラル低下。アニメキャラを好む→幻想の世界。社会のモラルハザード。理不尽さを問うより従う人間が多い。 ・自分の中でしっかりした価値観の醸成がきわめて重要であり、教育が持つ役割である。日本人は周りにあわせるのが得意だが周りがおかしいときもある。 ・勉強する友達がいるといい。遊びもするけどお互い頑張れる友達。皆で頑張ろうと言えるライバルにも助けにもなる友達関係を高校時代に作る事が大切。 ・いい人材。旭高校の先生が仕掛けを作っている。教員の意識が反映されている。経営者の視点としての学校と感じる。ムードや仕掛けがここまでできている。 ・新しい学び、プレゼンテーションの力をつけることが大切である。 ・現状維持から次の次元へ進むのは教員の中からである。教員の仕掛け→ムードができる→次の次元。ここまで来ているのは旭高校の教員の素晴らしさである。生徒が集まってきている。成果が教員の目に見えて来ているのでは？ <p>□校長謝辞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学希望調査で旭高校は2.81倍で国際関係学科の中で断トツのトップだった。教育を評価いただいていると感じる。期待に応えるよう努めたい。第2回学校協議会でご意見を賜った授業の中に話し合う、討議することも入れていく。行事や部活動、友人関係を大切に、他人を思いやれる、伸びしろのある生徒を育てていく。 |
| <p>学校協議会による学校評価</p> <p>●学校評価（学校協議会委員からの評価を平均したもの）</p> <p>◆総合評価 A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の育成 A ・キャリア教育に基づく自己実現の支援 A ・学校の特色づくりと組織力の向上 S <p>※評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> S・・・十分に目標達成できた（100%以上） A・・・おおむね目標達成できた（80%以上） B・・・ある程度目標達成できた（60%以上） C・・・あまり目標を達成できなかった（40%以上） D・・・目標を達成できなかった（40%未満） | |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|----------|---|---|--|--|
| 確かな学力の育成 | 【わかる授業、やる気を引き出す授業】 ア 個人・教科としての指導目標設定と教科間での連携の徹底 | ア (4～7月) 職員会議のない木曜日に全教科の教科会を設け、教科担当者同士で授業改善に取り組む。ICT活用勉強会を定期的に行う。25年12月の授業アンケートの結果の③～⑨の平均点を個人の基準の点数として、向上する(改善する)ためにはどのような工夫が必要かを模索する。授業の組立やコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を高める授業運びを提案。ICTを活用した授業改善の模索。 (8月～11月) 教員相互の授業見学を行う。教科毎のよりよい教授法の及び副教材(データやプリント)の教員同士の情報交換。授業見学(校内、校外を問わず)と、その後の気づきや授業改善へのヒントを校内で共有できるシステムづくり。 (12月～3月) 年間の振り返りとして、生活指導、資格取得、広報共に大きな成果が出た。今後この状態を維持しながら、学力向上に取り組む。 | □学校教育自己診断の結果(肯定的回答) 学校教育自己診断結果「授業はわかりやすい」 平成25年度48.1%を4.9%増の53%にすることを目標とする。 □授業アンケートの結果(肯定的回答) 授業アンケート ・「授業内容に、興味・関心をもつことができた」についての肯定的回答を75%にすることを目標とする。(平成24年度63%から平成25年度大幅増の74%だった) ・「授業を受け、知識や技能が身についたと感じている」についての肯定的回答を77%にすることを目標とする。(平成24年度68%から平成25年度大幅増の76%だった) □英検準2級以上合格者数 英検準2級以上合格者数合計、平成25年度59名を6名増の65名にすることを目標とする。(平成24年度51名) □センター試験受験者数 平成25年度32名を8名増の40名とする。 □語学関係行事 語学関係行事の充実を図る。 ・夏休みの英語学研修を実施する。 ・留学生の受け入れを積極的に行う。 ・語学力を高めるために、語学系の暗唱大会や国際ショナルフェスティバル等への参加を促すなど。 □補習・講習 学習の機会の充実を図る。 ・各種講習を充実させる。 ・追認指導をきめ細かく行うなど。 □特別授業 生徒の視野を広げるための効果的な特別事業を実施する。 | 【わかる授業、やる気を引き出す授業】 □学校教育自己診断の結果(肯定的回答) ・「授業はわかりやすい」昨年48.1%から49.3%(H26.12)に微増したが、目標値53%に届いていない。(○) ・今後、授業改善の意識と共に、ICTの機器活用等や教科内の連携を通して更にわかりやすい授業をめざし、肯定的な回答増加に取り組んでいく。 □授業アンケートの結果(肯定的回答) ・「授業内容に、興味・関心をもつことができた」昨年74.3%から73.8%(H26.12)となり微減したが、ほぼ維持できた。(○) ・「授業を受けて、知識や技能が身についたと感じている」昨年76.1%から71.5%(H26.12)となり微減した。(△) ・昨年、目標値を10%前後大幅に上回る結果となったため、今年は微減となった。教科や単元により難しいこともあり、単に%向上を求めるだけでなく、教職員一人一人が更なる授業改善の意識を持つよう、また教科間の連携を促すよう働きかけていく。 □英検準2級以上合格者数 ・受験者数290名(昨年度205名) ・合格者数準2級98名(昨年度50名)2級13名(昨年度9名)計111名(昨年度59名)の合格者を出すことができた。受験者数昨年度の1.4倍、合格者数昨年度の1.9倍という予想を大きく上回る好結果となった。(◎) ・英語科の働きかけのお陰で目標を大きく上回る驚異的な結果が出た。今後も準2級以上の合格者を増やすよう取り組む。 □センター試験受験者数 ・受験者数57名(昨年度23名)で1.78倍を達成。(◎) ・今後もセンター受験者数を増やしていく。 □語学関係行事 ・英語学研修(7月)24名参加(◎) ・奈良Eパスツアー(9月)49名参加(◎) ・英語暗唱大会(11月)1年(◎) ・スピーチコンテスト(11月)国教科2年(○) ・第2外国語暗唱大会(12月)(◎) ・国際関係学科インターナショナルフェスティバル(1月)7名出場(◎) ・スピーチコンテストや暗唱大会を通して生徒たちの成長を感じた。特に第2外国語暗唱大会では学び始めて1年弱での習得度に感心した。今後も語学関係行事の取り組みを推進していく。 □補習・講習 ・夏期講習・冬期講習等(◎) ・土曜講習(◎) ・追認指導(◎) ・早朝講習(◎) ・通常の授業時間以外に生徒のやる気を促すための講習、遅れを取り戻すための補習を行った。今後も無理のない範囲で生徒たちの学ぶ機会を増やし、学力向上に繋げていく。 □特別授業 ・1年カルタ大会(1月)体育館に於いて(◎) ・課題研究発表公開授業(1月)(◎) ・1・2年教養講座(1月)演劇鑑賞(○) ・生徒の視野を広げるよう今後も推奨していく。 |
| | イ 学習の質量の向上 | イ ・季節講習、補習などの実施状況と受講状況の把握と効果の実証と改善を通し、学習の機会を増やす。 ・自宅学習の充実を図る方法を模索する。 ・模擬試験等の分析と対策。 ・センター試験への誘導。 ・各教員の授業力の向上と相談体制の確立。 | | |

府立旭高等学校

| | | | | |
|-------------------|--|--|--|---|
| キャリア教育に基づく自己実現の支援 | <p>【自主自律・協調友愛（校訓）】の実践に繋がる取り組み</p> <p>ア 自立した生活習慣の確立</p> <p>イ 体験による「気づき」から学びを深める *成功・失敗・達成・克服体験など</p> <p>ウ 学校行事等による社会人基礎力の醸成</p> | <p>ア 生活指導部と学年との連携による指導方針の明確化と全教職員の実践。・遅刻・挨拶・制服指導の校内体制の精査。SNS 対策。自転車事故防止への取り組み。</p> <p>イ 進路指導部と学年との連携による年間計画の周知（生徒、保護者、教職員）、実践結果の検討。部活動支援のための全教員協力体制の強化。学期毎に各部の活動状況、生徒の様子を把握。</p> <p>ウ 体育祭、文化祭等の学校行事の充実。国際理解教育の実践。国際交流の充実。英語教育力の向上。</p> | <p>□遅刻者数 遅刻者数を減らす。 ◎遅刻者数（3 学年合計） 平成 25 年度年間 1927 件を 77 件減少の 1850 件にすることを目標とする。</p> <p>□部活動加入率 部活動加入率を上げる。 部活動加入率（3 学年平均） 平成 25 年度平均 66%を 67%にすることを目標とする。（24 年度 59%）</p> <p>□行事関係 ●進路指導に関する行事 進路指導に関する指導を充実させ、情報提供に留まらず、生徒の希望の進路実現に繋げていく。</p> <p>●国際理解教育に関する行事 国際交流を推進し、生徒に国際感覚を醸成できる環境を提供する。</p> <p>●生徒指導に関する行事 危機管理の一環としての避難訓練や、生徒の生活指導の一環としての SNS や薬物の危険性についての講演を実施する。</p> | <p>【自主自律協調友愛（校訓）の実践】</p> <p>□遅刻者数 1157 名（昨年度 1927 名）で 40%減を達成した。（◎） ●遅刻者数は昨年度の 1927 件で府立高校 20 位だったことから今年度更に 40%減となったことは大きい。遅刻者数大幅減は教員の創意工夫と組織としての根気強い働きかけの成果である。</p> <p>□部活動加入率 昨年度 66.2%から 67.1%で微増となり、目標値を若干上回った。（◎） ●部活動は体力や知力だけでなく、社会人基礎力醸成にも繋がるので、今後も推奨していく。</p> <p>□行事関係 ●進路指導に関する行事 ・センター模試：1 年 332 名 2 年 253 名受験 〃 3 年 5 月 276 名 7 月 243 名受験（○） ・看護師体験 34 名参加（7 月）（○） ・医療模試 49 名受験（5・9・11・2 月）（○） ・進路説明会生徒向け 9 回保護者向け 2 回（◎） ・受験講演会 3 回（7 月 2 回・2 月）（◎） ・授業公開週間・保護者懇談会（6・11 月）（○） ・1 年大学見学会と壁新聞（10 月）（○） ・大学等模擬授業（10 月）21 講座開講（◎） ・センター試験受験者 57 名（昨年 32 名）（◎） ●希望の進路実現のために、進学に限らずキャリア教育として様々な角度からの働きかけを行う。</p> <p>●国際理解教育に関する行事 ・タイ姉妹校教員来校（4 月）36 名（○） ・豪姉妹校生徒・教員来校（9 月）13 名（◎） ・2 年海外修学旅行（10 月）マレーシアでホームビジット、シンガポールで国際交流（◎） ・タイ教員来校（9 月）33 名大阪府観光局（○） ・留学生受け入れ（年間通し）4 名（◎） ・グローバル体験プログラム 89 名参加（◎） ●普通科・国際教養科含め学校全体としてグローバル人材育成に繋げるよう今後も取り組む。</p> <p>●生徒指導に関する行事 ・全生徒対象 SNS 講演（6 月）（◎） ・救急法講習会（6 月）（○） ・2 年人権講習会車いすダンス（11 月）（◎） ・1 年薬物乱用防止講習会（1 月）（◎） ・避難訓練 2 回実施（4 月・10 月）（○） ●生徒の命を守る、視野を広げる行事が、学年対象、全校生徒対象で行われた。今後も推奨する。</p> |
| | 学校の特色づくりと組織力の向上 | <p>【組織力の向上】</p> <p>ア 戦略化の共通理解</p> <p>イ ICT 活用</p> <p>ウ 地域連携</p> | <p>ア 〈4 月～7 月〉 魅力授業プロジェクトによる ICT 活用研修の充実。 〈8 月～11 月〉 新入試状況を踏まえた今後の学校の将来像を検討。 〈12 月～3 月〉 26 年度の取り組みについての検証。改善点の把握と新しい取り組みの模索。</p> <p>イ 学校掲示板活用の徹底。業務連絡の効率化。</p> <p>ウ 広報活動の更なる充実と拡大。地域コミュニティー等や小中学校との連携。中学校訪問の際に持参する資料の更なる充実。それぞれの分野に関して綿密に企画し、実施後のまとめや反省を校内で共有する。</p> | <p>□学校運営：年間を通しての取り組み 広報活動に力を入れる。 ・学校のイメージ戦略の一環として、HP の改変を行う。 ・学校説明会の来客数を精査し、中学訪問校数や訪問先を適切に決定する。 ・オープンスクールを年 2 回から年 3 回に増やし、来校者数 1500 人を目標とする。 ・25 年度に立ち上げた『魅力授業プロジェクト（MJP）』を中心に ICT 機器の検討や選定、及び活用研修を実施し、授業改善に取り組む。</p> <p>□教職員研修（全 6 回） 教職員研修を充実し、教職員の自分磨きを徹底する。</p> |